

准教授

西丸 月美

■ 学歴

1. 熊本大学大学院教育学研究科学校教育専攻（修士課程） 卒業

■ 学位

1. 2010年 修士（教育学）

■ 研究分野

1. 学校保健学
2. 健康教育学
- 3.

■ 研究キーワード

1. 専門性
2. 養護教諭
3. 不登校・多職種連携

■ 研究課題

1. 養護教諭の専門性について、歴史的背景をもとに連携を中心に考察する。具体的には、不登校・教室外登校の児童生徒に対する支援において、養護教諭と多職種連携について考察する。さらに現在の養護教諭の多職種連携に関する課題等について考察する。

■ 担当授業科目

1. 地域保健学Ⅱ（前期）（福祉学科）選択
2. 学校保健（前期）（福祉学科）選択
3. 学校保健教育法（後期）（福祉学科）選択
4. 養護概説（後期）（福祉学科）選択
5. 教職実践演習（後期）（福祉学科）選択
6. 養護実習（通年）（福祉学科）選択
7. 2021 入学養護実習事前事後指導（三期にわたる）（福祉学科）選択
8. 2022 入学養護実習事前事後指導（三期にわたる）（福祉学科）選択
9. 専門研究Ⅰ（通年）（福祉学科）必修
10. 専門研究Ⅱ（通年）（福祉学科）必修

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	<p>授業科目名【地域保健学Ⅱ】</p> <p>本科目は養護教諭一種免許状取得に必要な科目であり、看護臨床実習（病院実習）、養護実習の履修要件を満たすための科目である。現代社会における心身の問題と医療の動向について学び、養護教諭としての健康相談の具体的な方法・技術および子どもの健康問題の解決支援及び連携の方法を解説する。将来、養護教諭として健康相談の実践ができるように授業を展開した。また、地域保健学Ⅰで学んだ知識を基礎にできるだけ具体例を示し、グループワーク、ロールプレイ等を取り入れ、関心を高めるように心がけた。さらに、養護実習での経験したことを事例として、事例検討会を行った。</p>
2.	<p>授業科目名【学校保健】</p> <p>学校保健は、学校において児童生徒や教職員の健康を保持増進し、心身ともに健康な国民の育成を図るという教育目的に寄与することを目指す科目である。</p> <p>本講義では学校における保健管理、保健教育、保健組織活動について主に解説し、養護教諭として理解しておく必要のある事項について、基本的内容を中心的に授業を行った。また健康課題の解決に向けた実践事例を取り入れ、養護教諭としての具体的なイメージができるように事例検討、演習などグループワークを取り入れ授業を展開した。さらに児童生徒の健康課題について各自テーマを設定し、プレゼンテーションを作成し、自己評価及び他者評価を行い実践力の向上に努めた。</p>
3.	<p>授業科目名【学校保健教育法】</p> <p>学校における保健教育の意義及び学習指導要領の基本方針等について概説し、小・中・高等学校・特別支援学校における保健教育の位置づけ、目標・方針・内容等について講義を行った。児童生徒等の発達段階に応じた授業成立の要件を学び、指導計画、指導内容、指導方法、指導案の作成、教材研究、評価法について解説した。小・中・高等学校及び特別支援学校における保健教育の授業を展開できる能力を養うことを目指し授業を展開した。授業では、保健教育の理論について学び、学習指導要領に基づき保健教育の指導計画案を作成した。また、授業において一人ひとりが、保健教育の指導案、教材を作成し、10分間の保健教育を行った。模擬授業について、全員で参観し、自己評価・他者評価を行いグループでディスカッションを行った。教育実習で授業を行うための事前準備の段階ととらえ、実践力をつけることができるように工夫した。</p>
4.	<p>授業科目名【養護概説】</p> <p>学校保健の教授内容を踏まえ、養護教諭の専門性に基づいた養護活動の基本について講義を行った。主な講義内容は、児童生徒等の発達過程や子どもの特性を踏まえた保健室の機能と養護教諭の役割、児童生徒等の健康診断、学校感染症予防、疾病管理、学校安全と危機管理、学校救急処置、健康相談などである。授業では、養護教諭の具体的な活動例を提示し、グループワーク演習を行った。また、養護教諭としての実務経験を踏まえ、実際の養護教諭の職務がイメージできるように具体例を示し解説した。特に保健室経営についての講義では、グループでディスカッションを行い、「私たちの理想とする保健室のレイアウト」、「保健室の掲示物」を作成しグループごとに発表を行った。将来養護教諭としてのイメージが持てるように授業内容を工夫した。</p>
5.	<p>授業科目名【教職実践演習】</p>

	<p>この授業は、これまでの教職課程での学習及び養護実習を振り返りながら、養護教諭としての使命感、保護者や地域への責任、信頼される学校づくり等の課題について考える機会となることを意図している。また、児童生徒等の理解の方法や専門性を高めるためのリソース活用法など、各演習テーマについて、グループ学習や討議・発表といった演習形式で学習し、養護教諭の実践的スキルと資質・能力の向上を目指す。授業では、養護実習での課題をグループごとにディスカッションをおこない、課題解決に向けてグループワークを行った。また、養護教諭と多職種連携について具体的な事例を通して演習をおこない、学校現場における実践的な力を身につけるために授業の構造を工夫した。多職種との連携するための実践力を高めるために、グループワークを多く取り入れた。さらに、養護教諭として「特別支援学校・特別支援教育における役割」、「性教育における養護教諭の実践」について外部講師を招き、実践力を高めるための工夫を行った。</p>
6.	<p>授業科目名【養護実習】</p> <p>養護実習を通して養護教諭として必要な態度を養い、学校保健の推進と実践力を培うことを意図している。小・中・高等学校において3週間の養護実習を体験する。実習内容は実習校の実状に応じて計画する。養護教諭の職務内容については実習校の重点的な保健活動あるいは実習期間中の行事等を考慮する。但し実習機会のない項目についても可能な限り講話や資料で学習し、実習校における保健活動全体の概要を把握できる養護実習にできるように事前、事後の指導を行った。教職課程担当者が、実習期間中に実習校に実習訪問に出向き、学生の実習の様子を把握し、実習の事後指導に生かした。本年度は後期に実習となる学生も数名いたが、全ての学生が実習を終了し実習報告会を実施した。</p>
7.	<p>授業科目名【2021 入学養護実習事前事後指導】</p> <p>養護実習に臨むための準備を整え心構えをするとともに、実習後の整理を追求的にこなす機会となることを意図している。実習前は実習校での学校教育活動と学校経営・運営に参加するにあたって必要となる知識及び技術を身につけることを目指す。実習後は体験を通して修得した事項や課題について学生相互に意見交換させることにより自省的整理や定着化を図ることができるよう講義を行った。養護実習の事前指導として実習前にオリエンテーションを行い、人権学習・現職養護教諭の講話などを実施した。学校現場がイメージでき、臨機応変に対応できるように具体的な事前指導を心がけた。養護実習後にはグループごとに養護実習についてまとめ、実習報告会を実施した。</p>
8.	<p>授業科目名【2022 入学養護実習事前事後指導】</p> <p>養護実習に臨むための準備を整え心構えをするとともに、実習後の整理を追求的にこなす機会となることを意図している。実習前は実習校での学校教育活動と学校経営・運営に参加するにあたって必要となる知識及び技術を身につけることを目指す。養護実習の事前準備として、健康診断、保健室経営、保健教育啓発活動（保健だよりの作成）などを実施した。グループワークを取り入れ、実際の実習が体験できるような工夫を行った。実習前の学習等を指示し、実習校に向かう心構えや準備等が具体的にわかりやすいように授業内容の工夫を行った。</p>
9.	<p>授業科目名【専門研究Ⅰ】</p>

	<p>専門研究Ⅰでは、研究テーマを設定し、先行研究等の文献の中から興味のある文献について提示し、グループでディスカッションを行った。さらに、各自が興味のあるテーマを設定し、研究ができるように指導を行った。また、教員採用試験について各自が過去問題を持ちより情報交換を行い、問題のポイントを解説し、理解が深まるように授業内容を工夫した。保健室経営や救急処置について学び、より実践的な学習ができるようグループワークを取り入れるなどの工夫を行った。さらに養護教諭としての実践力を高めるために、学校現場で養護教諭として活躍する卒業生の保健室を訪問し、保健室経営や児童生徒への対応について学びを深めた。</p>
10.	<p>授業科目名【専門研究Ⅱ】</p> <p>専門研究Ⅱでは、専門研究Ⅰでの研究をさらに深めるために、各自がテーマを設定し、プレゼンテーションを行った。養護教諭の視点から専門性を深め、少人数でのグループワークを通して、コミュニケーション能力や表現力の養成も工夫した。また、2年間のまとめとして研究レポートを作成し、研究のまとめをおこなった。また、保健室の掲示物作成を行い、養護教諭として保健室経営について具体的にイメージできるような授業内容を工夫した。さらに卒業後の進路について定期的に個人面談を行い、一人ひとりの適性に合った就職支援を心がけた。</p>

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2009年4月～現在に至る	日本学校保健学会	学会員
2.	2009年9月～現在に至る	日本教育心理学	学会員
3.	2009年6月～現在に至る	日本教育保健学会	学会員
4.	2010年6月～現在に至る	日本人間性心理学会	学会員
5.	2014年8月～現在に至る	日本教育カウンセラー協会	協会員
6.	2015年1月～現在に至る	日本学校心理士会	協会員
7.	2015年1月～現在に至る	日本アロマコーディネーター協会	協会員
8.	2016年2月～現在に至る	日本産業カウンセラー協会	協会員
9.	2022年～現在に至る	応用教育心理学会	学会員

■ 研究業績等に関する事項（2023年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論文等の 名称	単 著・ 共著 の別	発行所、発表雑 誌等又は発表 学会等の名称	概 要
(著書)					
1.					
2.					
3.					
(学術論文)					

1.	2024.4	「教職実践演習」における多職種連携に関する学生意識の変化	単	西南女学院大学紀要 Vol.28	①「教職実践演習」において、養護教諭を目指す学生が、養護教諭の他職種と連携する際に必要な視点や具体的場面がイメージでき、さらに多職種連携の姿を理解するための方法として事例検討を教職実践演習に取り入れた教育実践を行った。受講生に対して受講前後に実施した、多職種連携の能力に関する調査データを量的に分析し、授業の教育効果を検討した。 ②単著 西丸月美 ③ (P39～P46)
2.	2024.9	養護教諭と多職種連携に関する事例を用いた授業「教職実践演習」の教育効果の検証	単	「応用教育心理学研究」第41巻第1号	①「教職実践演習」において養護教諭と多職種連携の事例を用いた授業について学生の自由記述式の自己評価を質的に分析し、その教育効果を明らかにすることを目的とした。その結果、＜自己課題の理解＞、＜養護教諭の専門性の理解＞、＜多職種連携の理解＞、＜グループワーク体験によるチームワークの必要性の理解＞は【多面的理解】と相互に関連し、それらのカテゴリの関係性は養護教諭の専門性や役割に関する理解を促進し、多職種連携の必要性について役立つ学びが示唆された。 ②単著 西丸 月美 ③43 項～54 項
3.					
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外 者	交付決定額 (単位:円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2017年～現在に至る	日本養護教諭養成大学	評議委員
2.			
3.			

■ 学内における活動等 (役職、委員、学生支援など)

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2017年4月～現在に至る	教職課程委員会	委員
2.	2024年4月～2025年3月31日	国際交流委員会	委員
3.	2020年4月～2023年3月31日	キャンパスハラスメント委員会	相談員
4.	2017年4月～2025年3月31日	学生アドバイザー	アドバイザー教員